

円筒印章・スタンプ印章類目録

石田恵子(古代オリエント博物館)

鯨井秀伸編

木村定三コレクションには円筒印章とスタンプ印章があり、円筒印章14点、スタンプ印章13点、また印章がなく粘土による印章印影のみのものが13点含まれている。他に印章ではない護符、垂飾が1点ずつある。13点の印影の内3点以外は既存の印章のものである。ここにカタログおよび註記としてまとめたのは、石田恵子氏の調査による目録記述に基づき編者が編集して英文を付し、また部分的に関連すると思われる参考資料を編者註記として〔註〕に追加したものである。また編者が、印影のみの資料から1点を選び、試みにイコノグラフィーの視点から興味深い印影について類似のイメージリーを辿った小論を付け加えた。

凡例：

各項目は、下記の順に掲載した。

図版：番号；タイトル；出土地；時代；材質；寸法(高、径、幅、孔径mm)；コレクション番号；備考；英文；註。

英文は編者による。参考資料の記述等は別段特記のない場合、D・コロンの『円筒印章』1996年刊による。

目録

1.

円筒印章(動物列)

メソポタミア

ジェムデト・ナスル期(前3100-2900年)

雪花石膏？

37.85 × 14.4 4.5

M2437.5

二頭の山羊が立ち、上の背景に角の広がる山羊がしゃがみこみ、それを伏せて狙うオオカミがいる。一頭の山羊の角にはリブが付いていて、もう一頭の角



にはリブがない。肩から前脚にかけてのラインが強調されている。

Cylinder Seal with Goats and Wolves, Mesopotamia, Jemdet Nasr period (3100-2900 BC), Alabaster?

〔註〕類似の山羊を表す印章の一つが大英博物館に所蔵されている。BM 128843 (図1) 水晶 2.65 × 1.7 II期C (前3000-2334年) ディヤラ川流域。これらの羚羊類はしばしば様式化されているため、識別は困難とされる。BM 128843の山羊には明瞭にリブが付いている。また、H・フランクフォートによれば(H. Frankfort, *Cylinder Seals*, 1939)、ウルク時代に類似の山羊の印章が見られる。下部の前景に壺と山羊が、上部の後景にはライオンが描かれている。*Goats, lions and amphorae*, M.D.P. xvi, 194, *Lions hunting game*, U.V.B. v, Pl. 24e。これらでは山羊を襲う猛獣はライオンである。



2.

蛙形護符

メソポタミア／エジプト

前3000年～紀元前後

13.7/16.0 × 11.2

赤色メノウ

M2439.3

Amulet in the shape of Frog, Mesopotamia/ Egypt, 3000-ca. 1 B.C., Red Sardonyx.

〔註〕蛙は農耕に必要な雨水を招く動物として豊穰礼願のお守りとなった。水神・知恵の神あるいは深淵の神であるエア神の物語に関連して登場することが知られている。前3500-3300年頃のテル・ブラク出土の蛙の護符が知られている。これはアラバスター製である(シリア国立博物館蔵)。



3.

円筒印章(闘争文)

メソポタミア

アッカド時代(前2334-2193年)

29.2 × 17.2 4.8

蛇紋岩

M2437.2

立ち上がるライオンに襲われる牛を助けようとする英雄。英雄の背後には立ち上がる鹿。合間に(楔形?)文字が3文字入る。

Cylinder Seal with Contest Scene, Mesopotamia, Akkadian Period (2334-2193 B.C.), Serpentine.

〔註〕人物を中心に両側に外を向いた牛を配し、その一方をライオンが襲う図であるが、獲物を襲うライオンを攻撃する人物が多く見られるものの、Ur. 118 (C. L. Woolley, The Royal Cemetery)などが類似する印章として知られる。野牛を飼い慣らすことは文明の偉大な成果のひとつであるが、ここから野牛と闘い、強獣を征服することが、英雄の力のイメージとなっていったのである。



4.

円筒印章(闘争文)

メソポタミア

アッカド時代(前2334-2193年)

31.0 × 18.2 5.25

蛇紋岩

M2437.3

中央に立つ英雄が立ち上がるライオンに襲われる左右の有角獣を両手で保護している。左の有角獣は角が伸びているが、右の有角獣は角の先端が丸くなっており、ガゼルやアイベックスなど山羊の種類が異なるようである。

Cylinder Seal with Contest Scene, Mesopotamia, Akkadian Period (2334-2193 B.C.), Serpentine.



5.

円筒印章(謁見図)

メソポタミア

アッカド時代(前2334-2193年)

34.5 × 23.2/21.2 5.25

蛇紋岩

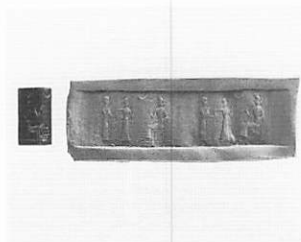
M2437.1

台座の上の椅子に座る角冠を付けた神が、動物の後ろ脚の木彫を柄付きの斧で削って作成中である。薄手のキルトを着た従者がかがんで有蹄類の脚付き卓を押さえている。その背後にはバケツ(捧げ物)を持った人物が礼拝のポーズで

立っている。中央の卓の背後には銘文用の枠のみがある。神が作っているのはテーブルの脚の可能性もある。

Cylinder Seal with Presentation Scene, Mesopotamia, Akkadian Period (2334-2193 B.C.), Serpentine.

〔註〕 労働する神々を描くものには、神殿と思われる建設に従事する神々を表したアッカド王朝時代の印影等が知られている (C.E. Suter, *Gudea's Temple Building*, 2000)。工作をする神の例は類例が見出せなかったが、同様の謁見図において、神の前のテーブルが動物の脚でできているものにシャマシュ神の図がある。この場合神が手に持っているものは鋸である (メトロポリタン美術館蔵 ムーア・コレクション no.108)。



6.

円筒印章(謁見図)

イシン・ラルサ時代(前2000年頃)

メソポタミア

20.9 × 12.4 3.4

赤鉄鉱

M2437.4

座する女神への謁見、銘文摩滅(削られている)。台座の椅子に座る女神にシュメール風の頭髪を剃った人物を低位の女神が紹介している。人物の背後には銘文の枠があり、文字はほとんど削られて文字のあった痕跡が残るのみ。間に三日月が置かれている。

Cylinder Seal with Presentation Scene, Mesopotamia, Isin - Larsa period (ca. 2000 B.C.), Hematite.

〔註〕 謁見あるいは奉獻・供儀の図は作例が多い。坐する神に低位の神(個人神)が謁見者を紹介する図は定型の一つである。



7.

円筒印章(謁見図)

イシン・ラルサ時代(前2000年頃)

メソポタミア

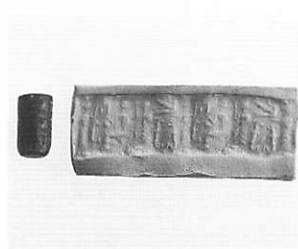
23.2 × 12.0 4.3

蛇紋岩?

M2438.2

角冠(片方しか残っていない)をかぶり、ひだ飾りの長衣を身に付け台座の上の椅子(後ろ部分が消えている)に座る女神がいる。シュメール風に剃った頭の人物を紹介の女神が手を引いて紹介している。間に三日月がある。縦二行の銘文があるが、途中に鳥の絵が入っており、文字も楔形文字ではなさそうである。座る女神の後ろ部分の椅子や角冠が欠けていることから、後世に元あった銘文を削った影響かもしれない。ただM2437-4の図柄と酷似しており、細部を比較すると、M2437-4の方が出来がよい。

Cylinder Seal with Presentation Scene, Mesopotamia, Isin - Larsa period (ca. 2000 B.C.), Serpentine.



8.

円筒印章(謁見図)

シリア様式(前2000年紀)

シリア

20.4 × 12.0 4.1

赤鉄鉱

M2439.2

椅子に王侯が座り2本の線がつく縦長の細長い物(茹でたとうもろこし?)を持つ。その王侯に謁見する前に立つ人物は目と鼻とあご髭の先端が判明するのみで顔や頭部の細部表現はわからない。座る王侯の後ろにも同様な人物が同じく崇拝のポーズをとって腕を上げている。ひだ飾りが斜めにめぐる長衣を身に付けている。謁見する人物の前と後ろ、後方の人物の後ろには座るサルが描かれる。結果向き合って座るサルの上に頭に飾り羽根のついた鳥(魚の尾?)がいる。合間に縦長の短い刻みや円がある。

Cylinder Seal with Presentation Scene, Syria, Syria (ca. 2000 B.C.), Hematite.



9.

スタンプ印章印影(両面)

前2000年頃

アフガニスタン

60 × 82 両面式スタンプ印章(4.0 × 4.3cm)

油粘土

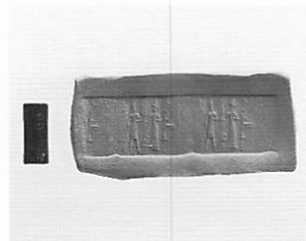


M2440.2

両手に蛇を持つ翼が2枚生えている裸体の英雄、有翼のライオンと木。

Modern Impression of Stamp Seal. Winged Hero with Snakes and Winged Lion, Afghanistan (ca. 2000 B.C.), Clay.

〔註〕 この印影については付論考を参照のこと。



10.

円筒印章(謁見図)

古バビロニア時代(前18-16世紀)

メソポタミア

24.3 × 10.1 4.0

赤鉄鉱

M2438.1

数重の角冠を着けた嵐の神が自身を象徴する稲妻形の棒を持って立つ。向き合って立つのは帽子を冠り膝までのキルトを身に付けた人物で、このポーズは古バビロニア時代の「棍棒を持つ男神」の棍棒を持たない姿と言ってよい。両者の間には座るサル、嵐の神の後ろには三日月、座るヤギ、マルドゥク神のシンボルである鋏？がある。三行の銘文がある。

Cylinder Seal with Presentation Scene, Mesopotamia, Old Babylonian period (18th to 16th century B.C.), Hematite.



11.

円筒印章印影(狩猟文)

中期アッシリア時代(前14-11世紀)

メソポタミア

57 × 88 円筒印章(H: 40mm D: 16mm程度)

油粘土

M2440.1

有翼のライオングリフを弓で射る英雄、星と魚2匹。

Modern Impression of Cylinder Seal with Hunting Scene, Mesopotamia,

Middle Assyrian period (14th to 11th century B.C.), Clay.

〔註〕 この印影については付論考を参照のこと。



12.

円筒印章(人物文)

前1000年紀

東地中海沿岸

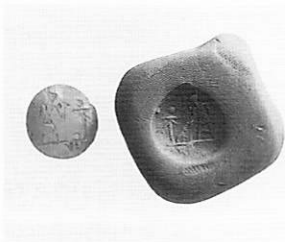
29.4 × 11.85 4.0

黒色石

M2436.1.2

垂直方向に二重に連なる槍先と端部が丸い槍？を間に立てて、向き合って座る人物二人が手で支えている。人物の頭は三角で顔の向きが示され、槍の右の人物は鼻まで表現されている。人物の身体は方形に脚が付け足されており、スツールに座る。左の人物の後ろに同じ姿の人物が同様にスツールに座り左手を上に向けて挙げている。胴の前には草(鳥?)のような表現がある。この人物の後ろには曲げた腕の表現があるが、槍？の右の人物とどちらの腕なのか不明である。いずれも対等な人々が椅子にかけて談笑しているように見える。

Cylinder Seal with Sitting Figures, East Mediterranean District, (10th century B.C.), Black Stone.



13.

スタンプ印章(エジプト風)

前1000年紀

東地中海沿岸地域

16.5 × 14.0 2.3

青色玉髄

M2438.14

エジプトのファラオのような姿の人物が、ワス笏(イヌ科の動物の柄がつく)のような杖を持って立つ。意味不明な台があり円形の何かがその上にある。上端部がすぼまり、ペンダントのようである。孔の片方の開口部周辺が欠損している。

Stamp Seal with Figure, East Mediterranean District, (10th century B.C.), Blue Chalcedony.



14.

円筒印章(狩獵文)

新アッシリア時代(前9-7世紀)

メソポタミア

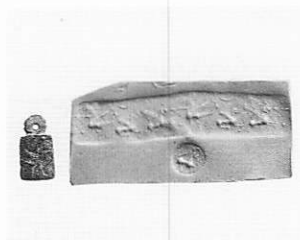
30.0 × 13.3 3.85

黒色石

M2439.1

矢筒を背負った射手が膝をつき、牛を狙っている。両者の間には低い木があり、牛の上には星がある。

Cylinder Seal with Hunting Scene, Mesopotamia, Neo Assyrian period, (9th to 7th century B.C.), Black Stone.



15.

スタンプ円筒印章(狩獵文)

ウラルトゥ時代(前8-7世紀)

北西イランから南東トルコ

27.5/18.15 × 14.5 2.85

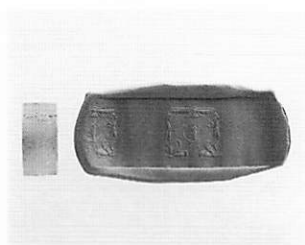
灰色石

M2437.7

やや裾広がりの円筒印章面には、有翼ライオングリフィンと有翼の牛に対し、鹿頭のサソリ尾で鳥の胴体で頭部(不明?)の怪物が弓を射ている。三日月と星がある。スタンプ印章面には山羊と星2個がある。

Stamp Cylinder Seal with Hunting Scene, Northwest Iran or Southeast Turkey, Urartu (8th to 7th century B.C.), Gray Stone.

〔註〕ウラルトゥのスタンプ円筒印章は他地域と異なり、円筒が末広がりで側面が凹面をなしているのが特徴である。本資料と同様のスタンプ円筒印章には、大英博物館蔵BM 130670が知られており、ウラルトゥ特有のハイブリッドな怪獣を描いている。



16.

円筒印章(儀式)

アケメネス朝ペルシア(前5-4世紀)

イラン

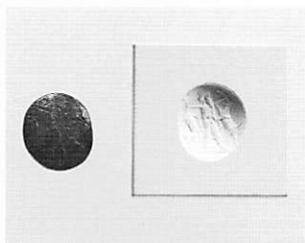
35.85 × 17.0 3.85

青色玉随

M2437.6

有翼円盤の下の左右に、弓を背負った兵士が中央を向いて立つ。兵士の下には有翼のライオングリフィンが外向きに立つ。中央に三日月に乗った祖先神が円の中に描かれている。空白部分は注文によって彫られる部分であろう。

Cylinder Seal with Ceremony Scene, Iran, Achaemenid Persia (5th to 4th century B.C.), Blue Chalcedony.



17.

スタンプ印章(闘争文)

アケメネス朝ペルシア時代(前5-4世紀)

イラン

25.6 × 19.4 × 17.3 2.9

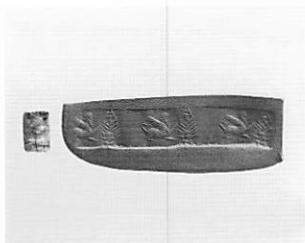
青色玉髓

M2438.7

王冠を冠った王が両手で有角獣を捕らえている。角の表現が異なり、別種の山羊と思われる。通常の闘争文はライオンや怪獣などの刃向かう者をやっつけるパターンである。本例は獲物を捕らえており、図柄配置は闘争文であるが本来の意味は失われている。美しい青色玉随製のみごとな印章である。

Stamp Seal with Contest Scene, Iran, Achaemenid Persia (5th to 4th century B.C.), Blue Chalcedony.

〔註〕勝利のモチーフは共通のテーマであり、多くのヴァリエーションを持つ。獣の前に立つ王は、獣や怪獣の角や喉、後脚などを持って立つ。類似資料にはメトロポリタン美術館蔵のL 2364.24や86.11.31などがあるが、本印章はL 2364.24に酷似している。



18.

円筒印章(儀式)

アケメネス朝ペルシャ時代(前5-4世紀)

イラン

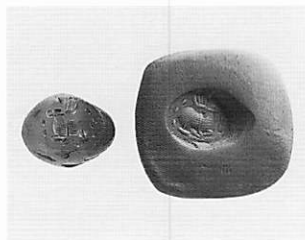
19.0 × 12.5 2.9

赤白シマメノウ

M2438.3

人頭で有翼のライオンが聖樹らしきものに前脚をかけている。旋盤などを使用した雑な彫りである。

Cylinder Seal with Ceremony Scene, Iran, Achaemenid Persia (5th to 4th century B.C.), Sardonyx.



19.

スタンプ印章(鹿文)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

15.8 × 18.0 × 14.0 (印面 13.7 × 10.03) 2.0

茶白色メノウ

M2438.6

しゃがむ鹿像と本来の文字銘文を意識したと思われる横長のドットが5個ある。

Stamp Seal with Crouching Stag, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), Brown Sardonyx.

〔註〕雄鹿は頻繁にササン朝の美術に描かれている。特に染織の分野では多く見られる。類似のスタンプ印章にメトロポリタン美術館蔵 A.N. 86.11.50 があり、そこでは木の枝の前にうづくまる雄鹿が描かれ、上に三日月がある。



20.

スタンプ印章(王侯胸部文)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

23.3 × 26.2 × 20.4 (印面 19.3 × 19.0) 5.0

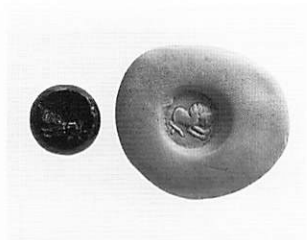
茶白色メノウ

M2438.8

二枚の翼の台座上に右向きの王侯像があり、左右に星が2個。

Stamp Seal with Male Bust in Right Profile, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), Brown Sardonyx.

〔註〕 男の胸像を描いたスタンプ印章は多数類例があり、メトロポリタン美術館蔵 no.2 (style A), no.47 (style B), no.104 (style B) (Ch. J. Brunner, *Sasanian Stamp Seals in the Metropolitan Museum of Art*, 1978; 以下 SSS) などが知られている。この中でも no.104 のものが最も類似しており、この印章では有髭の男性胸像で、毛髪を束ね頭頂は真直ぐに表され、イヤリングを付けている。胸像は先がとがって切られ、様式化された形式の翼の基部の上におかれている。



21.

スタンプ印章(ライオン文)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

12.5 × 15.25 (印面 13.0) 2.3

濃緑に赤混の石

M2438.9

横たわるライオン像。ライオンのたてがみや顔はホリユーム豊かに表現されている。

Stamp Seal with Sleeping Lion, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), Deep Green and Red Stone.

〔註〕 類似したスタンプ印章は数多く、メトロポリタン美術館蔵 no.168 (style B), no.16 (style B), no.190 (style B) (SSS) などがあるが、本印章はより様式化が進んでいるように思われる。ライオンの像には、歩く、しゃがむ、うずくまる、眠る、正面観、襲うなどがあるが、本印章は眠る姿態に分類されるようである。



22.

スタンプ印章(有翼人頭牛)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

20.8 × 24.9 × 16.9 (印面 13.1 × 17.2) 8.2

赤色メノウ

M2438.10

やや稚拙な有翼人頭(王冠を冠っている?)牛とY字形品。外表面には長軸を線対称に勾玉状の刻線文様が優美な曲線を描く。

Stamp Seal with Human-faced Winged Bull, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), Red Sardonyx.

[註] 有翼人頭牛のスタンプ印章は多数知られていて、メトロポリタン美術館蔵93.17.18や93.17.19などがある。93.17.19の方が類似性が高く、これは木の枝の前に立つ有翼の人頭牛が、髭を生やしターバン状の頭飾りとイヤリングを付け、上には三日月がある。



23.

スタンプ印章(有翼人頭牛文)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

17.1 × 21.3 × 16.5 (印面 13.7 × 17.1) 4.5

茶色メノウ

M2438.12

髪あるいは冠がV字状に表現された有翼人頭牛と銘文?

Stamp Seal with Human-faced Winged Bull, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), Brown Sardonyx.



24.

スタンプ印章(こぶ牛文)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

14.1 × 15.4 × 11.0 (印面 13.3 × 13.8) 2.2

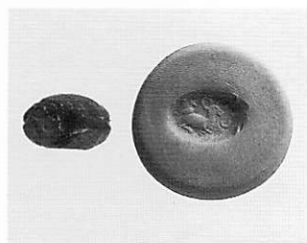
(白色)透明メノウ

M2438.11

丸々としたこぶ牛。文字列あり。文字の中に星文もあり。

Stamp Seal with Zebu standing in Right Profile, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), (White) Sardonyx.

〔註〕雄牛のモチーフは頻繁に描かれたが、それは中央イランの人々の経済、神話、宗教儀礼などにおける重要性を反映していたためである。野牛を飼い慣らすことは文明の最も偉大な成果のひとつであったが、そうして得られた畜牛は、人間による自然の征服を象徴すると同時に、農業における人間のパートナー的存在でもあった。



25.

スタンプ印章(羊文)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

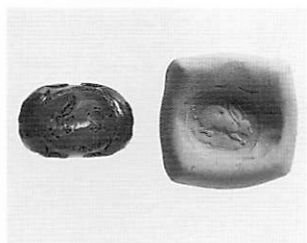
14.7 × 19.0 × 12.3 (印面 10.4 × 14.0) 5.6

赤白色メノウ

M2438.13

羊像に三日月と星。座る羊の側面観で尻尾の部分は欠損している。外表面は3個の刻線の円弧が接し合っている。

Stamp Seal with Ram lodged in Right Profile, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), Sardonyx.



26.

スタンプ印章(ウサギ文)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

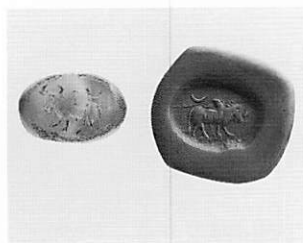
20.0 × 25.0 × 16.1 8.3

灰褐色メノウ

M2438.4

写実的なウサギで耳の前後の重なりも強調されている。表面には左右対称に弧状の浮彫りが施されている。

Stamp Seal with Hare in Right Profile, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), Grayish Sardonyx.



27.

スタンプ印章(こぶ牛文)

ササン朝ペルシャ時代(3-6世紀)

イラン

19.9 × 25.2 × 16.9 (印面 15.7 × 20.0) 6.9

白透明シマメノウ

M2438.5

ありふれたこぶ牛と三日月である。

Stamp Seal with Zebu standing in Right Profile, Iran, Sasanian Persia (3rd to 6th century B.C.), White Sardonyx.



28.

ガラス垂飾

ビザンチン時代

東地中海沿岸地域

17.7/25.2 8.5

緑色ガラス

M2439.4

図柄は頭頂部が尖った(帽子をかぶった?)聖人?が右手を上げて立っている。頭の左右に小さな十字が二つある。

Glass Pendant, East Mediterranean, Byzantine (4th to 5th century?), Green Glass.

〔註〕初期ビザンチン時代(400-500年頃)にエルサレムで出土したと伝えられる、ライオンの右側面全身像を描いたガラス製のペンダントが知られており、本資料とほぼ同形態であり、幸運を願った護符ではないかと推測されている。本資料もそうした物の一つと思われる。



29.

スタンプ印章(動物文)

ササン朝ペルシャ時代?

イラン?

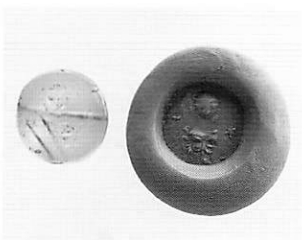
22.3 × 29.3 3.0

茶色シマメノウ

M2436.1.1

ライオンの正面視の顔を中心に山羊、牛、鹿、アンテロープ?の頭部が放射状に、そしてその合間には3本の葉あるいは茎からなる植物文?が配される。

Stamp Seal with Lion Mask, Iran?, Sasanian Persia?, Brown Sardonyx.



30.

スタンプ印章(ライオン文)

ササン朝ペルシャ時代?

イラン?

21.8 × 30.0 2.9

(白色)透明メノウ

M2436.2.2

ライオン正面顔 ライオン側面顔 三日月 星。

Stamp Seal with Lion Mask, Iran?, Sasanian Persia?, (White) Sardonyx.



31.

スタンプ印章(動物文)

ササン朝ペルシャ時代?

イラン?

22.9 × 26.6 2.0

(白色)透明メノウ

M2436.2.1

ライオン 正面顔 アイベックス・鳥・サソリ・三つ葉?・文字?

Stamp Seal with Lion Mask, Iran?, Sasanian Persia?, (White) Sardonyx.

